

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	088	事業名	平成こども塾事業	担当部課	建設部みどりの推進課
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち		会計区分	一般会計
	まちづくり行程表・フラッグ	—		予算区分(款 - 項 - 目)	
	第6次総合計画・基本目標	✓ 子どもが元気に育つまち		9-4-1 社会教育総務費	
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	✓ (長久手市)平成こども塾マスタープラン・里山プラン・里山基本計画・田園バレー基本計画			
事業開始の背景、経緯等	平成11年に策定された第4次総合計画の柱の一つ、環境緑地系プロジェクトとして「長久手田園バレー構想」が掲げられ、平成14年度より「長久手田園バレー事業」が実施された。その子ども版プロジェクトとして平成18年4月に「長久手町(現市)平成こども塾」がオープンした。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ・平成こども塾の施設管理・運営等を行う。 ・地域の環境や自然についての学習活動 ・学習活動を通じた地域住民との交流 ・学校連携活動			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 小、中学生			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 里山の豊かな環境を生かした体験活動による、子どもたちの生きる力の育成			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 平成こども塾管理事業	改善・見直し	④	
	② 平成こども塾企画事業	改善・見直し	⑤		
	③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	予算 決算	12,645 12,035	12,365 11,590	12,426 11,647	14,614 14,297	15,351
人件費(B)	千円	決算	24,773	15,405	21,164	17,736		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	36,808	26,995	32,811	32,033		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A	安心安全な施設等の維持管理	%	目標 実績	100 100	100 100	100 100	100 100
B	参加者の満足が得られること	%	目標 実績	85 98	85 98	85 98	85 98	85
C			目標 実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 医療機関で治療をするようなケガをさせない								
B おおむね参加者の満足が得られること(満足度85%以上)								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 周辺市町村で子どもを主体とした食と農、創作、自然体験等の多面的な取組を実践する施設があるという例は聞かない。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ある程度達成できている。 学校連携プログラムの評価、また専門プログラムの評価も高い。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 目標が継続してある程度達成できている。同様に大きなケガもなく、参加者の満足度も高い。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) ・プログラム運営団体が徐々に高齢化しつつあるのでその対策。 ・施設の老朽化対策のため、適切な管理と予算の確保が必要である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 地域の自然環境や文化などについての学習活動ができるよう、施設の維持管理等を継続する。 地域で活動する団体等と連携をすることにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。
	中長期の目標	(いっごうまでに事業をどのような状態にしたいか) 5年後を目処に・プログラムの講師の若返りを順次図る。・劣化が激しい施設の修繕を、プログラムに影響の出ないよう計画的に実施する。里山での冒険遊び場作りを進める。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	---

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	平成こども塾事業		担当部課	建設部みどりの推進課	決算書ページ	—
事務事業名	①	平成こども塾管理事業	予算区分	9-4-1 社会教育総務費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成18年度	終了(予定)年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・小中学生を対象に ・今までどおり、安心で安全な体験プログラムが実施できるように、施設管理・プログラム運営を行います。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・安心安全な状況でプログラムを体験させる。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	9,010	8,653	8,714	10,772	11,403
		決算	8,496	7,942	7,964	10,499	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		一般事務嘱託員報酬					6,108 千円
(2)		消耗品費					900 千円
(3)		光熱水費					820 千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
安全な活動の実施		見込	200	200	200	200	205
		実績	200	204	205	213	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
・救急車を呼ぶことも大げがをすることもなく1年間の事業を終了できた。・今後もけがの無いように予防安全に努めつつ、プログラムの内容を充実させていく。 実績例：緊急情報配信メール委託事業1件							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

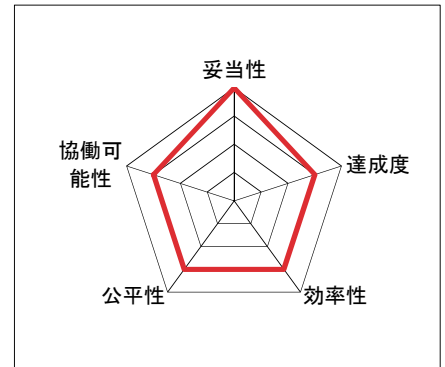
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成こども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化継承の体験活動の継続が重要である。
---

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
10,772 千円	11,403 千円	631 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】		
・プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。 ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの質的向上と拡大を図る。 ・里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。 ・評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。 ・劣化が激しい施設・備品の修繕を計画的に実施する。 ・上水道の凍結対策及び衛生面向上のため外部水道口の温水化を行う。		
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか) ・サポーターの育成は、木工作品制作、サポーター研修も兼ねて大人向けのプログラムを実施した。 ・こども塾に隣接した里山で活動している里山クラブとの連携は、具体的にはこれからのが、こども塾周辺の里山を整備したエリアは少しずつ拡大している。		

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
-				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) ・予定通り上水道の凍結対策工事及び衛生面向上のため外部水道口の温水化工事を行った。 ・男子トイレ入口の引き戸等修繕工事を実施した。
--

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) ・かまど施設内に設置された「かまど本体」の劣化がここ最近で急速に進んでおり、急ぎ修繕が必要となってきている。 ・地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの質的向上と拡大を図る。 ・平成31年度の施設管理として、予定通りシロアリ検査、デッキ部分取替修繕、木製建具修繕、配管及び構造丸太材の締増し調査を行う。
--

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

# 長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業(A票)名	平成こども塾事業			担当部課	建設部みどりの推進課	決算書ページ	—
事務事業名	②	平成こども塾企画事業			予算区分	9-4-1 社会教育総務費	
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成18年度			終了(予定)年度	—	

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・長久手市民を主体とする小中学生とその保護者。 ・環境団体、地域で活動する団体(サポート隊)や専門家の指導の下、様々な体験活動を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) ・子どもたちの感性や、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育む。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	3,635	3,712	3,712	3,842	3,948
		決算	3,539	3,648	3,683	3,798	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		平成こども塾創造スタッフ委託				2,208	千円
(2)		平成こども塾講師報酬金				1,590	千円
(3)							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
計画事業の実施件数	事業	見込	200	200	200	200	205
		実績	200	200	205	213	
参加者の満足が得られること	%	見込	85	85	85	85	85
		実績	98	98	98	98	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>計画事業の実施件数は予定通り実施することができた。</li> <li>参加者の満足度は、目標を上回り評価は全体的に高かった。</li> </ul> 実績例：専門プログラム「里山冒険クラブ」年間5回実施							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

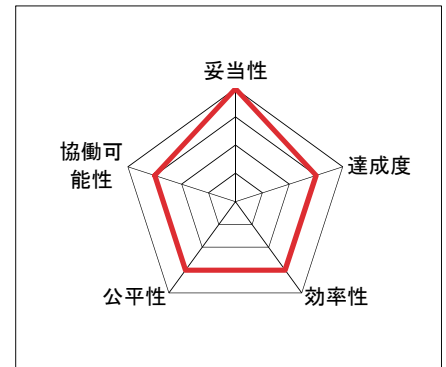
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) ・長久手市は、転入してくる若い住民が増えており、子どもたちの数も増えている。そのため、平成こども塾活動の存在意義も高まっている。これまでと同様に里山里地といった地の利を生かした、体験活動や文化の継承活動を行っていくことが重要となっている。
---

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
3,842 千円	3,948 千円	106 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	改善・見直し	
・前年度【コメント】	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を進める。</li> <li>地域で活動する団体等と連携することで、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。</li> <li>里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。</li> <li>評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。</li> </ul>	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの内容、進行方法や参加者の理解度等の改善を常に意識した運営を実施した。</li> </ul>		

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	400	400	400	400
実績	464	408	431	
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
NAF(ながくてアートフェスティバル)との協働によりこども塾祭りの実施他、下記の協働プログラムを実施した。日本介助犬協会、愛知県芸術大学、南木曾町等				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成こども塾サポート隊に29年度に加入された方(60歳台男)が星空に関するスペシャリストで、新規プログラムを企画・実施されるようになった。名古屋科学館との連携もできる人物で今後の活動が期待される。</li> <li>里山の冒険遊び場運営を担う人物の発掘が急務である。</li> <li>学校連携プログラムが強化され、週2日間職員が派遣されることになった。</li> <li>プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を引き続き進める。</li> <li>里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。</li> </ul>

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの実施主体であるサポーターの新規参加促進と育成を継続して進める。</li> <li>地域で活動する団体等と連携することにより、こども塾周辺の里山里地の整備を進め、活動エリアの拡大を図る。</li> <li>里山里地を活用した体験学習(学校連携・委託事業)を充実させる。</li> <li>評価の高い学校連携プログラムのさらなる充実を図る。</li> </ul>

## 7. 今後の方向性

改善・見直し